

中学校学習指導要領保健体育科編における（陸上競技）領域の変遷に関する研究
A Historical Study on the Changes of National Curriculum in P.E. of Japan.
～Especially through the analysis of the domain of track and field in junior high school～

1K03B002-2

青木悠人

指導教員 主査 友添秀則先生

副査 磯繁雄先生

1 研究の動機

学習指導要領は、すべての教科で告示され、社会情勢の発展に伴い、学校教育に対して各種の問題が提示されるとともにさまざまな要請もなされ改定を繰り返してきた。中学校学習指導要領保健体育科においては1947（昭和22）年の学校体育指導要綱から1998（平成10）年の学習指導要領まで6回の改訂が行われてきた。

陸上競技は、中・高等学校の学習指導要領に取り入れられており、小学校の学習指導要領にも陸上運動として取り入れられている。「走る・跳ぶ・投げる」という人間の基礎的運動能力を最大限に発揮することを競う、また他のスポーツ種目の基本にもなる。中学校学習指導要領の陸上競技教材の領域変遷について理解を深めていく。

2 研究の目的

第二次世界大戦後から現在に至るまでの中学校学習指導要領の変遷を各時代の社会情勢や政治との関わりを含めながら明らかにし、陸上競技領域のねらいや種目の変遷と問題点や留意点をみていく。

3 研究の方法

研究は文献講読によって行う。1947（昭和22）年の学校体育指導要綱から1998（平成10）年に告示された学習指導要領までの中学校学習指導要領陸上競技領域の変遷と陸上競技関連書物などそれに関連する文献によって歴史的研究を行う。また、文献での情報が不足しているところはインターネット検索により情報収集を行うこととする。

4 各章の要約

第1章では、第2次世界大戦後の学校体育指導要綱から学習指導要領（試案）を経て、法的拘束力を持ち国家基準となる「新体育の目標」、経験主義教育から系統主義教育への転換と大衆スポーツによる「体力づくりを重視した目標」運動の楽しさを味わわせ、運動への愛好的態度を養うことによって、生涯スポーツにつなげていこうとする「楽しさを重視した目標」と改定の変化をについて述べていく。

第2章では、6回にわたって改定されてきた学習指導要領を「経験主義体育の時期」「系統主義体育と体力主義体育の時期」「生涯スポーツに基づく体育の時期」と三つに区分して陸上競技教材のねらいや種目の変遷を体育科の目標と合わせてみていくことにする。

第3章では、学習指導では、場所、生徒の状況、学習時間などの制約条件が伴うという限られた諸条件の中で学習指導の効果を高める努力が要求されるのでこれまでの陸上競技教材についての問題点と指導上の留意点を挙げてみる。陸上競技の授業でのねらいとめあての持たせ方や生徒一人ひとりが自分の能力・適性などを生かすことのできる学習方法を考えてみる。

5 論文のまとめと今後の課題

学校体育における陸上競技の教材は、「学校体育指導要綱」が発行されて以来、少しずつその取り上げる種目や内容に変化を見せながらも、今日までずっと継続して、体育の中心教材として、取り扱われている。

陸上競技教材の存在理由は、陸上競技が個人スポーツの代表的なものとして、走る・跳ぶ・投げるという、身体運動の基礎的運動を内容としているものであるし、生活手段としても、体力養成手段としても、必要かつ重要であるという認識によるものである。

陸上競技を行うことで、自分の今もっている、体力および運動能力の最高水準を向上させるという挑戦以外に、前に立ちはだかる障害に対して、課題を持って乗り越えていくという挑戦、何事にも前向きで、積極的に乗り越えていくという挑戦などの、能力を養うことができる。

生涯体育・スポーツという観点から陸上競技では、それぞれの陸上競技における教材や練習手段の持つ特性から価値観を十分に理解し、実践することによってその醍醐味を味わわせ、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる身体と知識を養わせたいものである。